

ちば産学官連携プラットフォーム
2026年度 第3回 共同FD・SD研修会 実施報告書

1. 実施日時

2026年9月2日(水) 14時00分～15時00分

2. 開催形式

Zoomを利用したオンライン開催

3. テーマ

学生が地域ボランティアに参加する意味

4. 参加人数(内訳)

16名

(植草学園大学:3名、敬愛大学・敬愛短期大学:2名、淑徳大学:1名、千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部:4名、帝京平成大学:5名、東京情報大学:1名)

5. 講師

1. 敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター長 藤森 孝幸氏

2. 植草学園大学 保健医療学部 講師 石渡 正浩氏

(司会進行 敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター長 藤森 孝幸氏)

6. 研修内容(実施内容)

ちば産学官連携プラットフォームでは、地域支援連携事業部会で学生の地域ボランティアへの参加を働きかけていますが、いまだに学生ボランティアを打診してくる団体・組織の中には、「金がないから」「人手がないから」という理由で我々に学生ボランティアの派遣を依頼してくる例が多々あります。本来にあるべき学生ボランティアのありかたや、学生が地域ボランティアに参加する意味を、まず藤森氏がボランティアコーディネーターの視点から総論的に概観しました。また、石渡氏からは、地域リハビリテーションを事例とした学生ボランティアの在り方やその価値について報告していただきました。

藤森氏はボランティアコーディネーターの立場から、ボランティアの定義や学生ボランティアの現状と課題、自己有用感や地域との伴走の重要性を説明し、敬愛大学での取り組み事例を紹介しました。続いて石渡氏は、地域包括ケアや地域共生社会の現状、住民ボランティアの役割、学生ボランティアが地域にもたらす価値や学生自身が得る教育的効果、大学と地域の連携の意義についてまとめられました。

質疑応答では、学生の参加を促す工夫について意見が交わされました。

以上